

## (IV-64) 地方都市における高齢者の交通行動と交通サービスについて

足利工業大学大学院 学生員 中野 和弘

足利工業大学工学部 正会員 中川 三朗

### 1. はじめに

全人口のなかに占める 65 歳以上の人口が 7%を超えた社会を「高齢化社会」、その割合が 14%を超えた社会を「高齢社会」という。わが国における 65 歳以上の人口比率は現在 14%を超えており、すでに高齢社会となっている。こうした高齢社会において、高齢者が積極的に社会参加できる社会環境の整備が重要である。しかし、多くの高齢者は身体機能の低下から自動車を運転できなくなるなど、移動において制約が生じ、社会参加しづらい環境になっている。特に地方都市では、大都市と比較してモータリゼーションの発達や公共サービスの低下から、高齢者の移動が制約されていると考える。

そこで本研究は、地方都市である栃木県足利市を対象として、地域による高齢者の移動制約の違いから、交通行動と交通手段の問題点を分析し、高齢者を考慮した交通サービスについて考察することを目的とする。

### 2. 高齢者の定義と分類

高齢者の定義は、一般的に用いられている 65 歳以上の人とする。交通行動で制約を受ける人は、一般に「移動制約者」「移動困難者」「交通弱者」「交通困難者」などといわれているが、その定義は明確でない。本研究では、交通行動で何らかの制約を受ける人を移動制約者と定義する。高齢者の移動制約者は、移動に困難を感じる人や外出したいけど出来ない外出先がある人など、様々

であると考えられる。

そこで、表-1 のように高齢者を 4 つのグループに分類した。

表-1 移動の制約による分類

| 移動制約による分類 |   | 移動の困難度 |    |
|-----------|---|--------|----|
|           |   | 有      | 無  |
| 希望する外出先   | 有 | I      | II |
|           | 無 | III    | IV |

### 3. 調査の概要

高齢者の交通行動と交通手段ごとの問題意識を把握するため、足利市内の老人クラブ会員を対象に高齢者の交通実態に関するアンケート調査を行った。調査方

法は、足利市内の老人クラブに依頼し、会員へ配布する託送調査法で行った。調査項目は、個人属性、交通環境、日常の外

出行動、希望する外出先、交通手段別の問題点などである。調査した結果を表-2 に示す。

### 4. 移動制約者の分布

図-1 は、アンケート調査から足利市における高齢者を移動制約によるグループに分け、地区ごとにその人数の分布を示した図である。この図から、足利市は I に属する高齢者が多い地区（以下 I 地区とする）と II に属する高齢者が多い地区（以下 II 地区とする）に分けることが出来る。

表-2 調査結果

|       |         |
|-------|---------|
| 配布    | 1,006 部 |
| 回収    | 959 部   |
| 回収率   | 95.3%   |
| 有効回答  | 568 部   |
| 有効回答率 | 59.2%   |

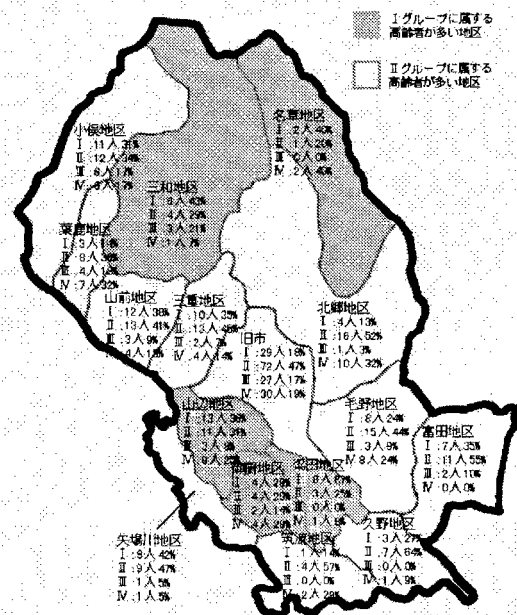


図-1 移動制約者の分布図

### 5. 地域の交通行動の比較

I 地区と II 地区における交通行動の違いを把握するため、I 地区と II 地区で高齢者の日常の外出行動につ

キーワード：地方都市、高齢者、交通行動、移動制約者、交通サービス

連絡先：〒326-8558 栃木県足利市大前町 268-1 Tel：0284-62-0605 Fax：0284-62-1061

いて比較を行った。

図-2は、調査結果からⅠ地区とⅡ地区の外出目的別の外出頻度を示したものである。Ⅰ地区よりⅡ地区の外出頻度が高いのは、日常の買物と文化活動である。Ⅰ地区よりⅡ地区の外出頻度が低いのは、大きな買物、通院、余暇である。これは移動に制約があると、日常の買物、文化活動は外出頻度が減少し、大きな買物、通院、余暇は外出頻度が増加することが考えられ、移動の制約は外出頻度に影響を及ぼしていると思われる。

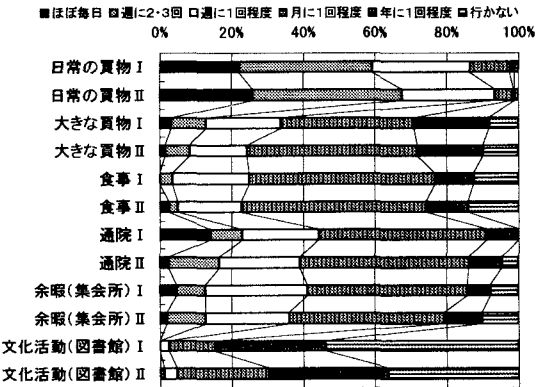


図-2 外出目的別外出頻度(Ⅰ地区とⅡ地区)

図-3は、調査結果からⅠ地区とⅡ地区の外出目的別の交通手段を示したものである。すべての外出目的で、Ⅱ地区よりⅠ地区の方が公共交通の利用が高い。これは移動に制約があると公共交通を利用する傾向があることが考えられ、移動の制約は交通手段の利用に影響を及ぼしていると思われる。

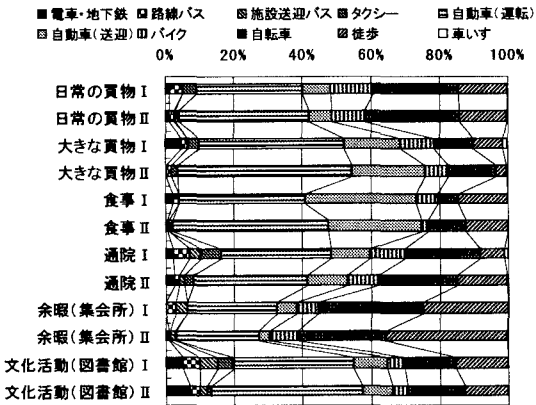


図-3 外出目的別交通手段(Ⅰ地区とⅡ地区)

6. 地域の交通手段別問題意識の比較

Ⅰ地区とⅡ地区における交通手段の問題意識の違いを把握するため、Ⅰ地区とⅡ地区で交通手段の問題意

識の比較を行った。中でも、問題意識を持っている人が最も多かった鉄道について比較した。

表-3は、調査結果からⅠ地区とⅡ地区における鉄道の問題点を上位5番目までを表したものである。鉄道の問題点で最も多かったものは、Ⅰ地区Ⅱ地区とも自宅から駅までの距離が遠いことである。2位以下で上位を占めているのを見ると、Ⅰ地区では改札口からホームまでの階段が長い(急である)など、駅施設内におけるハード的な問題である。Ⅱ地区では運行本数が少ないなど、ソフト的な問題点が上位を占めている。

表-3 鉄道の問題点(上位5番)

| 順位 | 鉄道の問題点の内容(Ⅰ地区)              | 人数   |
|----|-----------------------------|------|
| 1位 | 自宅から駅までの距離が遠い               | 32人  |
| 2位 | 改札口からホームまでの階段が長い(急である)      | 17人  |
| 3位 | 改札口からホームまでエスカレーター、エレベーターがない | 15人  |
| 4位 | 駅にベンチが少ない                   | 12人  |
| 5位 | 運賃が高い                       | 12人  |
| 順位 | 鉄道の問題点の内容(Ⅱ地区)              | 人数   |
| 1位 | 自宅から駅までの距離が遠い               | 185人 |
| 2位 | 運行本数が少ない                    | 64人  |
| 3位 | 運賃が高い                       | 59人  |
| 4位 | 改札口からホームまでの階段が長い(急である)      | 54人  |
| 5位 | 時刻表、料金表が見にくい                | 48人  |

7. まとめ

地域による高齢者の移動制約の違いから、高齢者の交通行動と問題意識を分析した結果、以下のようなことがわかった。

- ・移動の困難の有無と希望する外出先の有無から高齢者を分類し、足利市の地区別に示すと、Ⅰ地区とⅡ地区にわけられる。
- ・Ⅰ地区とⅡ地区で高齢者の日常の外出行動を比較した結果、高齢者の外出頻度に差があり、交通手段はⅠ地区の方が公共交通を利用する傾向がある。
- ・Ⅰ地区とⅡ地区で高齢者の鉄道の問題意識を比較した結果、Ⅰ地区ではハード、Ⅱ地区ではソフト的な問題意識を持っている。

Ⅰ地区は、移動に困難を感じ外出したくてもできない人が多い地区である。その地域において、鉄道ではハード的なものについての問題意識を持つ高齢者が多い。このことから、Ⅰ地区においてそれらの交通サービスを整備することにより、高齢者の移動の制約が改善されると考えられる。今後は、鉄道以外の交通手段の問題意識についても分析し、総合的に高齢者の交通サービスを考える必要がある。